

みどりの 東北

MIDORI NO TOHOKU



Vol.
192

東北森林管理局



令和元年度 森林・林業技術交流発表会
第 1 部 技術普及 東北森林管理局



特集

令和元年度 森林・林業技術交流発表会の開催

[技術普及課(詳細は2~4ページ)]

CONTENTS

■美しい森林づくり

民国連携による林業の成長産業化と人材育成への取組.....[仙台森林管理署]

■我が署の名所

恐山山地森林生態系保護地域(大尽山・釜臥山)

.....[青森県むつ市田名部 下北森林管理署]





特集

令和元年度 森林・林業技術交流発表会の開催

技術普及課

1月28日(火)・29日(水)の2日間、秋田アトリオンにおいて「令和元年度森林・林業技術交流発表会」を開催し、延べ609名が来場しました。

この発表会は、森林・林業・木材産業の活性化等を推進するための諸課題に対する様々な取組について、関係者が取組の情報提供や意見交換等を行い、技術の普及・向上及び交流を図ることを目的として、毎年開催しています。

〈開会式〉

開会に当たっては、主催者である東北森林管理局の小島局長の挨拶の後、来賓を代表して、(二社) 日本森林技術協会福田理事長からご祝辞をいただき、宮城県林業技術総合センター松野所長のご挨拶がありました。

〈発表会〉

今年度の発表課題は「一般の部」の「森林技術部門」12課題、「森林ふれあい部門」10課題、「森林保全部門」

4課題の計26課題、「中学・高等学校の部」1課題、合計27課題の発表がありました。

各部門の主な受賞課題は以下のとおりです。

●森林技術部門 最優秀賞

米代東部森林管理署上小阿仁支署 有馬さん

「治山事業における流木災害対策の計画及び実行にかかわる検討」

計画及び実行にかかわる検討

流木災害防止緊急治山プロジェクトで示された3つの緊急対策のうち、「流木捕捉式治山ダムの設置」と「流木化する可能性の高い流路部の立木の伐採等」に着目し、計画時(調査業務)と実行時(工事)における課題の抽出及び対応策の検討と下流域の民有林や保全対象である貯水ダムを所管する行政機関との連携を図ったところ、①受注者からの提案が増加し、多角的な検討を実施できた。②治山施設の位置や構造の決定に当たっては、「新設ありき」「スリットダムありき」とせず、現地

における流木災害をイメージし、位置・構造・維持管理方法等を検討・実行することができた、等の結果が得られたとの報告がありました。



森林技術部門 最優秀賞 有馬さん

●森林ふれあい部門 最優秀賞

宮城県北部地方振興事務所 栗原地域事務所林業振興部 岩淵さん 島貫さん

「くろはなの「苔」」

産地化に関する取組

栗駒国定公園をはじめ、豊かな自然環境に恵まれた宮城県栗原市において、山村地域の活性化を図るため、森林に自生する「苔」に着目し、地域と連携した試験栽培や特産品としての普

及などに取り組んでいる。この取組は北部地方振興事務所が平成29年度から主導し、これまで、①平成29年度に管内自生箇所及び栽培技術の調査、②平成30年度は試験栽培の開始・先進事例調査、③令和元年度には栽培の事業化、商品開発・販売支援、苔フェスティバルを開催したこと、また今後の課題についての報告がありました。



森林ふれあい部門 最優秀賞 岩淵さん 島貫さん

●森林保全部門 最優秀賞

岩手南部森林管理署遠野支署

服部さん 大和田さん

「早池峰山周辺地域における

二ホンシカ対策」

早池峰山周辺では、二ホンシカによる生態系や農林業への被害防止が課題となっている。遠野支署では早池峰山周辺地域において、①岩手県及び三陸北部森林管理署と連携した植生保護柵の設置、②国有林野事業での捕獲、また、捕獲支援として③林道除雪及び④協定に基づく地元猟友会等へのワナの貸与を実施している。これらの取組を検証した結果、①新規・延長設置については、労力の負担が大きいため、隣



森林保全部門 最優秀賞 服部さん 大和田さん

接署との相互応援等が必要、②狩猟等による捕獲に比べ国有林野事業での捕獲実績が少なく、シカ対策全体を踏まえた取組のすみ分けが重要、③林道の除雪支援は実施効果が高い、④ワナの貸与においては令和2年度に本格的な使用が見込まれ、特に非バネ式くくりワナの運用について注視していく、等の実績や課題が得られたとの報告がありました。

●中学・高等学校の部 優秀賞

山形県立村山産業高等学校

多田さん 小松さん

布川さん 井荻さん

「林業の活性化に向けた取組

～ドローンは林業の救世主!?～」

実習林において、①すべての林況把握が困難なこと、②枯損木の発見と対応が早期に行えないこと③作業現場までの移動が困難なことが課題であることから、林況を正確に知り保育作業を効率的に行うことを考え、①現有する森林簿と林班図を用いた実習林の踏査、②リアルタイムで林況を知る方法の検証、③ドローンの飛行及び空撮の方法の習得、④実習林の座標データを世界測地系座標に変換し地籍図の座標と照合、⑤空撮時の目印となる標定の設置とGPSによる標定位置の測定、⑥ドローンによる空撮、⑦空撮画像の解析、⑧図面とオルソデータから面積の算出、これらに取り組んだ結果、①

実習林を踏査し林況を知ることが、時間と労力が必要であること、②ドローンに関する知識と操作や空撮技術を習得したこと、③GPSに標定位置の測定とドローンによる空撮データを併用することで誤差の少ない情報を得ることができたこと、④空撮データと図面データを組み合わせることで面積やリアルタイムな高木層の林況を知ることができた、との報告がありました。



中学・高等学校の部 優秀賞 多田さん 布川さん

●日本森林技術協会理事賞

秋田樹木管理研究会

田仲さん 菊地さん 三浦さん

「ツリークライミングを基本とした

特殊伐採について」

特殊伐採は通常の伐木より作業条件が厳しく高所での作業もあり、一つ間違えば大きな労働災害を招く恐れもある

ことから、安全管理技術、作業技術が必要である。そのようなことから秋田県内の樹木医、空師、造園に携わる有志が今年度、秋田樹木管理研究会を立ち上げ、ツリークライミングを基本とした特殊伐採や樹木管理に関する知識や技術を習得するための活動を行っていることについての報告がありました。



日本森林技術協会理事賞 田仲さん 菊地さん

●日本森林林業振興会会長賞

青森県中南部地域県民局地域

農林水産部林業振興課

三上さん

「県産材の玩具を活用した木育の取組」

青森県産スギ等で木製玩具を製作・活用し、幼稚園・保育園での木育一日体験、木育モデル園で「木製玩具での遊び」植物観察「木のものづくり」、

指導者向けの研修・ガイドブックとして「木育手引書」を作成し、市町村等と連携した市民への普及啓発等を行った結果、木材・県産材の魅力をPRでき、木製玩具や木育の取組に高い評価をいただいたことと、中南部地域に「木育」が普及し、木工、子育て、保育・幼児教育関係者など関係分野の連携が深まったことについて報告がありました。



日本森林林業振興会会長賞 三上さん

●東北森林管理局林政記者クラブ賞

三八上北森林管理局

山口さん

「三八上北地域における木質バイオマス発電に対する原料供給の現状と課題」木質バイオマスの需要に因應するため、三八上北地域で林地残材を有効活用していくに当たり、現状の問題点を分析したところ、林地残材収集において一番の課題は集材（全木集材の実施）や搬出（適切な路網密度・ストックヤードの確保）であり、解決に当たっては事業者間における、伐採現場や収集方法の情報共有が重要であったこと等について報告がありました。



東北森林管理局林政記者クラブ賞 山口さん

〈特別講演〉

信州大学農学部

加藤教授

発表終了後の特別講演は「ICTを活用した林業のスマート化とイノベーション」と題し、スマート林業の全国展開と普及に向けた取組について紹介がありました。

「2017年より、産学官連携のもと、川上での最先端の各種レーザ計測による精密計測とIoT機能付き高性能ハーベスタによる収穫作業をつなぐことで、世界レベルでのスマート精密林業システム『長野モデル』を開発・公開している。

具体的取組は、航空機やドローンから計測された生のレーザ計測データに樹木の輪郭の不明瞭性や下層植生などのノイズが含まれるという課題があったが、独自プログラムからノイズを除去し、単木ごとの精密な樹冠を抽出する技術開発に成功した。計算式から、1本単位での立木位置、樹高、胸高直径、樹種、材積を高精度に把握がで

るようになった。

また、日本の林業成長産業化には、技術開発と並行して、川上〜川下を含めたサプライチェーン全体の連携が必要である。2017年に林業初の大学発ベンチャー精密林業計測株式会社を設立し、ビジネスモデルとしてスマート精密林業を実践している。このベンチャーの成功は、林業の発展だけでなく政府が進める地域創生の一つのモデルで、地方にある森林を生かして、夢のある成長産業だと示せば若者も集まり雇用が生まれる。イノベーションに繋がるように産業への貢献を目指している。」と、ご講演をいただきました。



特別講演 加藤教授

〈講評〉

審査委員長長の山形大学 芦谷教授から、発表会全体及び森林技術部門について、「森林・林業というのは長期的な視野に立つて継続して取り組んでいかなければならない。今回の発表でも長期の観察やデータの取得を要するものがあり、ぜひ継続して取り組んでいただきたい。」と講評をいただきました。

林野庁長官が訓辞



本郷長官

本郷林野庁長官が2月7日、秋田県の「秋田林業大」の特別公開講座で「これから林業・木材産業若者に期待すること」と題して県庁で講演を行い、その後、東北森林管理局を訪れ、当局の職員に「国民や地域に対し国有林ができることを常に考えながら業務を行ってほしい」といった等の訓辞を行いました。

また、審査副委員長の岩手大学 國崎准教授は、森林ふれあい部門について、「それぞれの多様で素晴らしい取組を、今後も継続することで、マニアル整備、仕組み構築、さらには地域振興につなげていただきたい。」間島森林整備部長からは森林保全部門と中学・高等学校の部について、「保全については、周囲の方々の知恵、マンパワーも借りながら進めていくことが肝要である、高等学校は林業のハンデとドロウの特性をよく捉えた発表であった。」と講評をいただきました。

なお、交流発表会のプログラム、発表要旨、審査結果等については、東北森林管理局のホームページをご覧ください。

アドレス

<http://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/sidou/happyoukai.html>

美しい森林づくり

民国連携による林業の成長産業化と人材育成への取組

仙台森林管理署

当署管内は、宮城・山形両県にまたがる蔵王国定公園や様々な保護林等の貴重な自然環境に恵まれ、一方、管内国有林の森林は面積の約3割が人工林であり、50年生を中心に主伐期を迎えています。また、隣接する石巻市には、全国でも屈指の合板工場を抱え、木材の安定供給に努めるとともに、県を挙げて林業の成長産業化を目指し取組を行っています。

当署では、林業の活性化に向けた取組として様々な活動を行っており、その一端をご紹介します。

① 地域の林業等発展に向けた取組

毎年、宮城北部署と合同で開催している「採材検討会」において、最近では広葉樹の採材についても有利販売に繋がる採材検討を実施しております。また、地元林業高校の公務員志望者を対象にインターン研修を受け入れており、昨年は国有林における現場での業務を実感してもらうため「採材検討会」を体験していただきました。



運営会議の様子

さらに、昨年8月、七ヶ宿森林事務所内に我が署で2箇所目となる森林整備推進協定を締結しました。第1回目の運営会議では関係者が集まり、民有地の集約化への取組状況や今後のスケジュールなどを確認したところでです。

② 寒冷地における早生樹導入の取組

平成30年3月に、地元企業と分取造林契約を締結、宮城県の気候・風土に適した早生樹の導入に向けて関係機関と連携しながら調査を行うこととして「早生樹の共同研究に関する協定」を締結し、今年度の「森林・林業技術交流発表会」にて発表を

行ったところです。白石森林事務所管内の分取造林跡地に、コウヨウザン二百本、ユリノキ四百本、シラカンバ千本を植栽、生育状況を調査しました。

現在の活着率は80%前後と、寒冷地での生育状況としては良好な数値を示しています。

3月には、協定を締結した関係者が集まり、早生樹の共同研究に関する報告会を開催して情報共有することとしています。

来年度以降も調査を継続し、寒冷地における早生樹の可能性について探っていきたいと考えています。



旺盛な生長を見せるシラカンバ

将来の林業を担う人材の育成への取組

地元林業高校の公務員志望者を対象に、3日間にわたり国有林における現場での業務を中心にインターン研修を実施しており、今年度は3名の志望者が参

加しました。1日目は座学を実施、次長を講師として公務員としての基礎を、後半は海岸防災林の復旧状況を見学、引き続き現場での基礎であるコンパス測量を実施しました。この研修には、経験の浅い若手職員も参加して誤差を競う競技会形式で実施、測量部に所属している高校生の精度の高さに驚かされたところです。

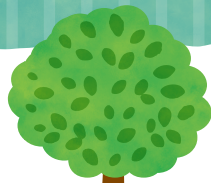
2日目には、近隣の国有林において収穫調査方法や午後からデータ入力などについて、担当者から説明を受けました。

3日目には、「採材検討会」にも参加、午後から「分度盤」を使用するの製図にも取り組み、3日間の研修を終了しました。

これ以外にも、地元中学校での森林教室やボランティア団体と連携しての枝打ち体験等、様々な形で森林・林業への理解を深めていただく活動を行っています。



コンパスをのぞき込む研修生



森のおはなし

— column —

東北地域における早生樹ヤナギとユリノキの増殖と育種の取組み

国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所林木育種センター東北育種場

育種課長 谷口 亨

1 はじめに

我が国の人工林は、半数以上が本格的な利用期に達し、主伐後の再造林を確実に進める必要があります。また、耕作放棄地は、過疎地域等の集落における重大問題であり、その解決策の一つとして森林への転換が検討されています。一方、木質バイオマスは、再生可能エネルギーとして注目され、間伐材・林地残材等由来の木質バイオマスの利用量は増加しています。このような状況において、主伐後の再造林と耕作放棄地の森林への転換に当たっては、多様で健全な森林への誘導、木質バイオマス利用による林業の成長産業化に向けて、これまでに用材生産を主な目的として植栽されてきた針葉樹造林樹種だけでなく、早く大きく成長する新たな早生樹への期待があります。東北育種場では、林野庁の「平成31年度エリートツリー等の原種増産技術の開発事業（3）早生樹の増殖技術の高度化と実用化の開発」の補助を受け、山形県森林研究研修センターと共同で、寒冷な東北地域に適した早生樹の増殖と育種への取組を開始しました。

2 オノエヤナギの増殖技術の高度化

オノエヤナギは東北地域の山間部の休耕田などに自生することがある東北地域の気候風土に適した早生樹です。超短伐期栽培での木質バイオマスへの利用が可能であり、キノコ栽培の菌床としての用途もあります。伐採後には萌芽がよく発生し、さし木発根性も高いことから省力的なクローン栽培に適していると考えられます。そこで、挿し穂とする萌芽枝を効率的に発生させるための条件検索として、オノエヤナギの伐採時期、伐採高と萌芽枝の発生量やサイズとの関係を調査しました。その結果、8月に伐採しても6月と比較して同程度かそれ以上の萌芽が発生することが解りましたが、8月伐採では野兎被害が多く見られました。また、高い発根特性を利用し、休耕田などに直挿して栽培することを想定し、直挿しに適した挿し穂の形状や直挿し可能な時期の検討を行い



(写真1)直挿し約6週間後のオノエヤナギ

ました。その結果、短いさし穂は発根率や成長が悪い場合があり、20cm程度の長さのさし穂が適することが解りました（写真1）。

3 ユリノキの優良個体選抜と増殖技術開発

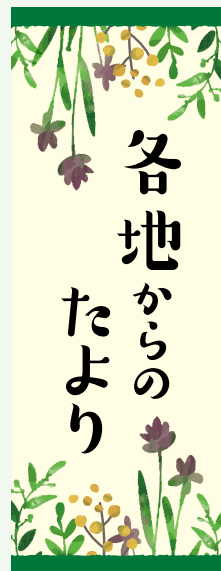
ユリノキはアメリカ東部原産であり、日本には明治初期に導入され、北海道から九州まで主に公園や街路樹に植栽されています。東北地方にも植栽事例が多く見られ、岩手県滝沢市での試験造林では植栽密度1,000本/haで樹齢28年時の平均樹高22m、平均胸高直径26cmと報告されています（國崎他、2006）。このように東北地域においても良好な生育を示すことから、用材生産やバイオマス利用を念頭に新しい造林樹種として期待しています。そこで、ユリノキの優良個体から種子生産を行うためのクローン採種園を作ることとし、東北地域から成長がよく、通直性が高い優良個体をこれまでに15個体を選抜しました。造林地でのユリノキは単幹で、下枝が高くまで落枝するという用材生産に適した樹形のため、地上から接ぎ木クローン苗作製の枝の採取が困難なので、ツリークライマーに依頼して枝を採取しました（写真2）。ユリノキのクローン苗作製にはつぎ木が利用可能であることがわかっています。一方、さし木は若齢木では発根率が高いが、成木では発根が困難とされています。このことを確かめるためにさし木実験を行ったところ2～3年生程度の実生17個体では15個体が発根しましたが、成木では発根しませんでした。今後、さし木条件を検索し、樹齢の影響や個体間での違いを解



(写真2)ツリークライマーによるユリノキの枝の採取

4 おわりに

早生樹に関する取組は始まったばかりですが、進捗状況と概要を紹介しました。今後も東北地域における新しい造林樹種としてオノエヤナギ、ユリノキを利用するための取組を進めていきます。



遠野の森林鉄道に関する情報発信

岩手南部森林管理署遠野支署

遠野支署では、遠野市役所本庁舎市民ホールにて、12月6日から15日までの間、「遠野の森林鉄道展」を開催いたしました。かつて遠野に存在した森林鉄道「附馬牛軌道」は、昭和4(1929)年に当時の附馬牛村大出から一本桐国有林の間に敷設され、その後の延伸やアイオン台風被害による路線の一部廃止等を経て昭和35年頃まで運用されていきました。

展示では、米軍が撮影した空中写真から判読し復元した路線図や運行中の列車を記録した写真、現在の軌道敷跡の写真などを紹介しました。

開催期間を通じて市内外から400人を超える方が来場され、テレビニュースや新聞でも紹介されました。特に、高齢者の方は若い頃に実際に乗車したり、森林鉄道を見たことがあるため、過去の記憶を確認することができて懐かしいと大変喜んでいました。

また、1月には遠野市附馬牛町の新年会において、支署長が講師を務めて遠野の森林鉄道についての学習会を行っています。これらの展示や学習会を通じて、遠野の森林鉄道に関する資料や遺物、「子ども」の頃に森林鉄道に乗せられて嫁入りする花嫁さんを見たことがある」などの証言が遠野支署に寄せられています。

それら新発見の資料や証言も取り入れて、3月には遠野文化友の会の学習会でも遠野の森林鉄道に関する報告を行います。これらの資料は遠野支署ホームページで近日中に公開したいと考えていますので御期待下さい。



運行中の森林鉄道(昭和31年6月25日)「群峯」(全林野遠野分会.1993)より

国有林モニターからの便り

森林ビギナーの私が モニターになって伝えたいこと

宮城県仙台市 原崎 里絵

「森林」「自然」「山」「野生動物」...

新聞やインターネットで目が釘付けになり手が止まってしまいう文字達です。

そのような中、国有林モニター募集を知り、いてもたってもいられず即座に応募いたしました。

毎月送付される情報誌や資料の専門性の深さに驚嘆し、森林や野生動物への興味のみで応募した自らの思慮の浅はかさを恥じつつも初心者なりの役割があるのでは、との姿勢で臨むことにしました。

初回の現地見学会は山形県大井沢地区での治山事業を、職員の方が飛ばせて下さったドローンの映像も交え、本来ならば目にする事が出来ない上流部までしっかりと見ることが出来ました。

実際、目の当たりにしたからこそ、近年多発している集中豪雨等に取り組み特定流域総合治山事業のさらなる充実に期待を込めずにはいられませんでした。

また、生産事業見学として地元森林組合のご協力の元、グラップル作業などの実演を間近で見ることができました。

第二回盛岡森林管理署管内にてシカ被害対策箇所の見学では、防護柵のほか個体群管理、テープや枝条巻き付けなど専門家や関係機関と連携しながら有効な手段を試行的な取り組みを行っているとのこと。

対策の更なる充実を図られる皆さまの苦悩を慮りながら知恵を集め創意工夫する発想が欠かせないと感じました。

次に一貫作業システム見学でのダイナミックな伐採では技術革新の粋を尽くした高性能林業機械の働きぶりに息を飲みました。

コンテナ苗の植え付けはコツを掴むのが難儀ではありましたが、実際バズーカの重さを感じ、土場の硬さを実感できる貴重な時間を持つことができました。

見学会の度に感じるのには、職員の皆さまの微に入り細に入る丁寧な対応ぶりの数々です。

新幹線出口での出迎えに始まり、興味を引く工夫溢れる資料、現地では靴の履き替えにまで至る細やかさ。

特に私は新幹線の切符の取り方からアレルギーへのお気づかい、また些細な質問へも快く応じていただき感謝の思いでいっぱいです。

と、同時に山深い静寂の森の奥や急峻な山道で高性能林業機械を屈指した作業システムや、野生動物の動向を映し出すセンサーカメラなど最新鋭のテクノロジーが活躍していることを知り、何とも不思議な驚きに胸が躍る思いです。

人手不足解消から林業機械の性能が高まった利点は大きく、今後ますます技術の向上が図られるだろうと確信するなか、思うことがあります。

山歩き等で出会うシニアの方々の見識の深さには感銘を受けると同時に活かせる場面はないだろうかと常々考えておりました。

シニア層やボランティアとの共生で森林事業の新たな多様性と融和が、林業へのより一層の理解が根付く契機となるに違いないのではないのでしょうか。

現状でもボランティアやNPO、地域との繋がりはありますが、もう一歩踏み込んだ能動的な取り組みが、シニア層の活躍とボランティア精神の熟成へと可能性が広がるよう期待を込めたいと思います。



肉より魚派の猛禽類

— ミサゴ —

藤里森林生態系保全センター 専門官 有本 実

日本に生息する猛禽類は、多くの種が中～小型の哺乳類や鳥類、両性・爬虫類等を食べる“肉派”ですが、今回ご紹介するミサゴはもっぱら“魚派”の変わり種です。上空から水中の魚を探る（水を探る子→みさご）ため、河川や湖沼、海辺でよく目にします。カラスより一回り大きく、トビよりも翼が細長くてスマートな猛禽類が水辺で飛翔していたら、ほぼ間違いなくミサゴでしょう①。

私がよく野鳥の撮影に訪れていた津軽地方のとある湖は、泳いでいるコイが橋の上から目視できるほど遠浅で②、ミサゴにとっては絶好の餌場でした。湖面の上空を飛翔しながら魚影を見つけると、器用に細かく羽ばたきホバリングしてターゲットの魚に狙いを定めます③。そして爪を立てて一気に急降下し④、魚体を鷲づかみにします。ミサゴの英名はOSPREYですが、アメリカの垂直離着陸機『オスプレイ』はミサゴのこの動きからつけられた愛称です。登山好きなら高機能なバックパックメーカーを連想するでしょうが、創

設者がミサゴの雄姿に魅了されてブランド名とロゴマークに採用したのだとか。

ミサゴが獲った魚を落ち着いて食べる場所まで運ぶ間、空気抵抗を減らすために必ず魚の頭を前に保持して飛ぶ姿はちょっとユーモラス⑤。逆向きに運ぶ姿を私は見たことはありません。それにしても、ついさっきまで水中を泳いでいた魚にとっては、一瞬で突然「空飛んでるよ、俺！」という訳のわからないパニック状態でしょう。その後まもなくミサゴの餌食になり、時にはカモメ達に横取りされ⑥、生命の輪が繋がっていく…自然界は無常です。

ミサゴが大きな水柱を上げてダイブし、コイやボラ等の大物をつかんで飛び立つ姿は圧巻です。留鳥のミサゴは一年中観察できますが、3月の水辺のバードウォッチングは北帰行前のカモ類やハクチョウ類等も見られるのでお勧めです。春山シーズンが始まる前に、確実に識別できる猛禽類を1種増やしてみたいはいかがでしょうか？



①カラスに追われるミサゴ



②上空から丸見えのコイ



③ホバリングして狙いを定める



④爪を立てて急降下



⑤コイの頭を前にして運ぶ



⑥横取りしようとするユリカモメ

森林官からの手紙

獣害対策を通じた地域交流

盛岡森林管理署 紫波森林事務所 森林官 梶本 愛



幣掛けの滝

私の勤務する紫波森林事務所は、岩手県中部に位置し、主に紫波町と矢巾町の国有林を管轄しています。紫波町には果樹園が多く特にブドウ栽培が盛んで、最近では美味しいワインも多数醸造されています。また、水争いの終結を記念して堰堤にツツジで「平安山王海2001」と文字がかかれた珍しい山王海ダムがあります。矢巾町には宮沢賢治も登った南昌山があり、「頂上曇れば雨が降る」という言い伝えのある山です。南昌山は付近の赤林山・毒ヶ森・東根山と合わせて登山コースが設定されており、山開きの際には私も含め多くの登山客が訪れます。南昌山頂上での景色を堪能した後、マタギが猟の安全祈願を行ったとされる幣掛けの滝の清涼な空気を感じ、矢巾温泉で登山の疲れをとる、晴れた休日には程よい癒しとなること間違いなしです。

事務所管内の虫壁国有林は、苗木に対する食害がひどく、設置したセンサーカメラにニホンジカが多く写り対策が必要でした。そこで、現在は箇所ごとに斜め張りネット柵・金網柵・PEネット柵の3種類の防鹿柵を設置



獣害対策の講義（いわて林業アカデミー）

そんな南昌山の麓で県が設置する「いわて林業アカデミー」は林業事業者の経営の中核となり得る技術者を養成しています。当署でも同アカデミーの要請により、研修生へ事業フィールドを活用した獣害対策の講義を行っています。また、県や市町村を集めた現地視察や高校生への説明会など獣害対策への理解をより深めてもらうため、多くの場面でフィールドを活用しています。

し、それぞれの比較対照調査を行っています。講義では、センサーカメラに写った写真やニホンジカの頭骨を使って生態について知ってもらい、また実際に現地で食害箇所を見て、その被害の深刻さと対策の必要性を肌で感じてもらいます。その後、獣害対策として設置した3種類の防鹿柵の素材の違いによる材料費・人工数・メンテナンスの頻度等、それぞれのメリット・デメリットなど、防鹿柵の有用性に触れてもらいます。

岩手県の南部や宮城県付近の海岸沿いでは多くみられるニホンジカも、紫波管内ではまだ少なく、現地視察に来たほとんどの人が動物園や観光地で見ただけの印象が強く、山での被害やその生態についてよく知りません。国有林を活用した研修や講義を通じて、今後の獣害対策に少しでも役にたてば大変うれしく思います。



自動撮影されたニホンジカ



我が署の名所

恐山山地森林生態系保護地域（大尽山・釜臥山）

青森県むつ市田名部 下北森林管理署



恐山総門と山門



宇曾利山湖畔から見た外輪山



森林生態系保護地域内の森林（ヒバやブナの混交林）

日本三大霊場の一つである恐山の周辺は、ヒバとブナで構成された原生的な天然林に覆われており、宇曾利山湖を取り囲む外輪山の1帯5,538haを「恐山山地森林生態系保護地域」に設定しています。ヒバの優占が著しい森林やヒバとブナの混交する森林が発達するとともに、標高が高くなるにつれてブナの純林に移行する林相になっています。その原生的な天然林を保存し、自然環境の維持や動植物の保護、多様な遺伝資源の保全等を目的に、原則として人手を加えずに自然の推移に委ねる保存地区と、木材生産目的の森林実施は行わない保全利用地区とに区分し管理しています。

宇曾利山湖畔を通る東北自然歩道は自然探勝や野生動物の観察に適しており、新緑や秋の紅葉等のヒバやブナの混交林を見ながら、散策をしてみたいかがでしょうか。

月の大祭や10月の秋詣りにイタコの口寄せが行われる霊場恐山には多くの参拝客が訪れます。また、登山家の岩崎元郎氏が中高年の方が登り易い山という視点を加味し選定した「新日本百名山」に選ばれた、きれいな円錐形の大尽山（おおつくしやま・標高828m）や、下北半島の最高峰で展望台からのむつ市街地等の眺望が素晴らしく、アゲハチョウの夜景で有名な釜臥山（かまふせやま・標高878m）など、下北地域最大の観光地として、全国から大勢の方が来て観光や登山を楽しんでいます。

◎交通アクセス

（恐山）
JR下北駅より県道4号線を恐山方面に車で約30分（約15km）。

（大尽山）
恐山手前にある無料駐車場（森林生態系保護地域の看板あり）より宇曾利山湖畔の東北自然歩道、林道、登山道を進む。往復約15km、約6時間。

（釜臥山）
県道4号線を恐山方面に行き途中左折し約10分で展望台に。展望台より遊歩道を約400m、約10分で頂上へ。

釜臥山スキー場駐車場より登るコースもあり。往復約5km、約4時間。



林野庁 東北森林管理局 下北森林管理署

〒035-0041 青森県むつ市金曲1-4-6

TEL 0175-22-1131 FAX 0175-22-1134

